

新型コロナウイルス感染症にかかる相談内容・状況の変化等について

資料6

難病患者およびその家族が「新しい生活様式」を日常生活の中で取り入れていることについての現状や課題について、担当保健師の訪問や面接、電話相談からみえたことについて現状を報告する。

	難病患者や家族の意見	保健センターでの対応	関係機関のスタッフの意見
日常生活について	<ul style="list-style-type: none"> ●外出頻度が減ったことにより、体力の低下を感じている。 ●人と話す機会が減ったため、声が出しづらくなり発声も小さくなってきたような気がする。 ●他者との交流ができない。 ●デイサービスや身体を動かすことができる事業が延期や休止となっていた時は、自主的に散歩をしていた。 ●可能な限り他者との接触を控えた方が良いと考え、調整がつく範囲で訪問リハビリを延期した。 ●アルコールなどの衛生用品の購入にかなり苦労した。関係団体より優先配布の案内があったが、ホームページにアクセスするなどの方法が高齢者には理解しづらく、とても大変であった 	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリ教室事業等の休止時及び再開する際に、一人ずつ状況を確認しながら相談の対応を行った。 ●家庭訪問による相談が行えずに情報把握が難しかった時期には、関係機関との連携を強化するよう対応した。 ●患者および家族の状況を的確に把握していく機会を確保していくことや、平常時から支援方法の見直しを図る必要性についての確認が大切であるとあらためて認識した。 ●カンファレンスなどの会議が実施できなかった時期があったため、連携のあり方についての課題を認識した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関（訪問看護、在宅支援センター、ヘルパー事業所等）のカンファレンスが延期となってしまうという現状がある。
家族について	<ul style="list-style-type: none"> ●患者本人が入院中の際、家族の面会が制限されているため、本人の様子を把握できずに家族の不安が増えた。 ●「在宅難病患者一時入院事業」を利用したかったが、病院への入院や他者との接触を控えた方が良いと考え利用を延期したため、家族の負担が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の不安や心配などについては具体的な傾聴を意識して相談対応を行った。相談内容によっては関係支援機関等との連携の必要性を認識した。 ●「在宅難病患者一時入院事業」については、感染拡大状況に応じた適切な利用について相談対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の不安を傾聴し対応を行っている。
医療について	<ul style="list-style-type: none"> ●病院受診の間隔が長くなってしまふことや、家族が代理受診をして薬をもらうなど、患者本人の診察が減ったことによる不安がある（往診に切り替えた方もいる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療に関する相談があった際は、主治医と情報の共有を図り、本人や家族の不安軽減につながるように対応している。 ●相談内容や状況によって訪問看護師等と連携し、支援スタッフで対応するように調整を行っている。 	

